

科目名	担当者名	配当	期	単位
刑事裁判演習	伊藤正義	3選必	前期	2(1)

### ■講義内容■

刑事訴訟実務の流れに従って、検察官、弁護士、裁判官の各立場や役割から事実認定に関する問題、法律問題等を取りあげて検討し、その適切な対処と手続の展開を理解していく。

関与学生を、検察官、弁護士、裁判官の各役にグループ分けし、それぞれどのような役割を担っているのか、どのように対処すべきか等を擬似体験させ、その立場から議論させることによって、裁判実務の基礎的技能を修得させる。

法廷での弁論や証拠調べ（交互尋問・模擬裁判）に重点を置くが、そのための法廷外活動も含めた訴訟手続全体について理解を深めるような演習を行う。

### ■シラバス■

#### <科目のねらい>

本演習は、「刑事訴訟実務基礎論（2年次後期）」と連続性をもたせ、有機的に関連付けられながら授業が進行される。

実際の刑事事件記録に、必要な加工を加えたものからなる「記録教材」をもとに、検察官、弁護士、裁判官の各役割を決め、捜査段階から公判段階、そして判決に至るまで、事件の流れにそって、各関係者が、手続の各段階における様々な状態に応じつつ、どのように関与して手続が進められているかを具体的に理解した上で、その過程で主体的に自分の立場を意識して、いかなる判断、行為が求められるかを考察させ、理論と実務との融合をはかる。

#### <科目の内容>

**第1回～第4回** 刑事裁判記録を配布し、刑事記録の見方やその内容、特に事実認定の検討

特に具体的な形で事実認定の基礎等を研究。併せて、事実認定に関する判例研究を行う。

**第5回** 刑事模擬裁判記録と模擬裁判要領を配布し、刑事模擬裁判の進め方の説明及び役割分担の決定と模擬裁判のための研究事項や準備事項等の指示。併せて、公判前整理手続・裁判員裁判についても研究。

**第6回** 起訴状の作成や証拠についての検討

書証、人証その他の証拠方法やそれに対する証拠意見の検討、なお被害者参加制度等被害者保護法制についても研究。

**第7回** 公判にむけての最終検討（事前準備・争点の確認）

冒頭陳述書の作成要領の指導

証拠申出書、尋問事項書の作成指導等。併せて、模擬裁判で行う交互尋問、異議申立てやそれへの対処方法等について研究。

**第8回～第11回** 公判手続の実施（法廷教室）

冒頭手続 人定質問・検察官の起訴状朗読・起訴状に対する求釈明・黙秘権の告知

被告人・弁護人の被告事件に対する陳述

証拠調手続 検察官の冒頭陳述・証拠申請・弁護人の証拠に対する意見・犯罪事実に関する検察官の立証（証人尋問の実施）

被告人、弁護人の冒頭陳述

犯罪事実に関する被告人、弁護人の立証

相反供述と法321条1項2号後段書面の取扱い

情状に関する立証

被告人質問の実施

**第12回 論告・弁論（法廷教室）**

論告（求刑）・最終弁論・被告人の最終陳述

弁論終結（特に、論告要旨、弁論要旨の作成指導）

**第13回 判決言渡期日（法廷教室）**

判決言い渡し（特に、判決書の作成指導）

模擬裁判の反省・まとめ

**第14回 模擬裁判講評**

**第15回 定期試験**

**<参考書>**

小林充他編『刑事事実認定（上）（下）』（判例タイムズ社、1992年）

司法研修所監修『刑事第一審公判手続の概要』（法曹会、2009年）

石井一正著『刑事事実認定入門第2版』（判例タイムズ社、2010年）